解禁時間（テレビ・ラジオ・Web・新聞等）：配布後

配布記者クラブ：文部科学記者会、科学記者会

プレスリリース

東京医科大学
TOKYO MEDICAL UNIVERSITY

報道関係各位

2020 年 9 月 16 日
東京医科大学

新型コロナウイルス感染拡大における
アルツハイマー病患者の抑うつ傾向について

【概要】

新型コロナウイルス感染拡大は、認知症患者とその介護者に大きな影響を与えていると考えられています。東京医科大学高齢総合医学分野 清水 聰一郎主任教授らの研究グループは、新型コロナウイルス感染拡大におけるアルツハイマー病患者の抑うつ傾向について、今回、126 名のアルツハイマー病患者における新型コロナウイルスの認識率との抑うつ傾向との関連を調査しました。

緊急事態宣言明け直後の神経心理検査の結果に加え、「新型コロナウイルスを知っていますか？」「なぜマスクを着ているのですか？」の質問に対する回答について検討しました。その結果、重度のアルツハイマー病患者では新型コロナウイルスの認識率が低く、マスクを着用している理由を理解していませんでした。さらに、新型コロナウイルス感染拡大の深刻さを理解していないため、うつ傾向も軽度でした。

重度の認知症患者が時事的な話題を知らないという当たり前のことを示しているだけに見えるかもしれませんが、これらの結果は、新型コロナウイルス感染拡大中の認知症患者のケア方法と、限られた時間とスタッフの配置方法について、ヒントがあると考えられます。よって、重度の認知機能障害のある患者に対しては、認知機能低下の予防と ADL の維持に努めるべきであり、マスク着用の必要性を説明する時も新型コロナウイルス感染症を理解していない前提で説明する必要があります。

一方で、軽症の認知機能障害患者には、心理的ストレスの軽減とうつ傾向などの精神的ストレスを優先するべきであると結論づけました。

本研究結果は、2020 年 9 月 15 日 米国誌「Journal of Alzheimer’s Disease」（オンライン版）に掲載されました。

【研究の背景】

新型コロナウイルス感染拡大により、高齢者、特に認知症患者とその介護者への影響が大きいと考えられており、多くの研究者がそのリスクについて警告しています。しかしながら、現在までに多くの研究では、電話アンケートや介護者の主観的評価による質的データのみで、実際の患者の心理状態を評価した報告はまだありません。

さらに、実際の臨床の現場においては、新型コロナウイルス感染拡大を気にしてふさぎ込んでいる方から、全く気にしていない患者も少なからずいることに気づきます。そして認知症が重度であるほど、新型コロナウイルス感染拡大を気にせず、あっけらかんとしていることに気づきました。そこで、重度の認知症患者においては新型コロナウイルスの認識率は低く、またうつ傾向も軽度ではないかとの仮説を立てて研究を行いました。

【本研究で得られた結果・知見】

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の解除された 2020 年 5 月 25 日から 6 月 30 日までの間に、東京医科大学病院高齢診療科を受診したアルツハイマー病（AD）患者 126 名を対象に日常臨床で行う Mini Mental State Examination (MMSE)と高齢者うつスケール（GDS-15）に加え、「新型コロナウイルスを知っていますか？」「なぜマスクを着ているのですか？」の 2 つについて質問しました。

患者は、軽度 AD グループ（MMSE スコア≧21、n = 51）と中等度-重度の AD グループ（MMSE スコア<21、n = 75）に分け、比較しました。

その結果、私たちの仮説と一致して、重度の認知機能障害のある AD 患者は新型コロナウイルスの認識率が低く、マスクを着用している理由を完全には理解していませんでした。

さらに、新型コロナウイルス発生の深刻さを理解していないため、うつ傾向も軽度 AD 患者に比べ大幅に軽度であるという結果でした（表 1）。

表1．アルツハイマー病における認知機能と新型コロナウィルスの認識率

	軽度アルツハイマー病 MMSE ≥ 22	重度アルツハイマー病 MMSE < 22
Sex (male / female)	15 / 36	20 / 55
Age (years)	80.98 ± 5.30	83.27 ± 5.32
Years of education	12.61 ± 2.62	12.29 ± 2.48
MMSE score	23.59 ± 1.40	16.53 ± 4.06*
GDS-S score	5.73 ± 3.30	2.54 ± 2.22*
新型コロナウィルス認識率	81%	31%*
マスクを着用する理由の認識率	78%	24%*

MMSE: Mini-Mental State Examination

GDS-S: Geriatric Depression Scale-Short Version

*p < 0.0001 vs Mild AD

解禁時間（テレビ・ラジオ・Web・新聞等）：配布後

配布記者クラブ：文部科学記者会、科学記者会

【今後の研究展開および波及効果】

これらの結果は、重度の認知症の人が時事問題を知らないことを単に示しているように見えるかも知れません。しかし、今回の研究は新型コロナウイルス感染症や災害時の緊急事態宣言下における認知症患者のケア方法の工夫と限られたスタッフやサポートを効率的に使用する方法についてのヒントになります。軽症の認知機能障害患者には心理的ストレスの軽減とうつ傾向などの精神的ストレスを優先するべきでしょう。

一方、重度の認知機能障害のある患者では、認知機能低下の予防と ADL の維持に努めるべきです。また、重度の認知症の患者にマスク着用の必要性を説明する時も、新型コロナウイルス感染症を理解していない前提でマスク着用を説得する必要があります。

これらの調査結果は、単一機関による小さなサンプルサイズのため、今後更に大きなサンプルサイズで、更には介護者の心理状況も踏まえた検討をする必要があると考えられます。

【掲載誌名】

「Journal of Alzheimer’s Disease」

【論文タイトル】

Awareness of the COVID-19 outbreak and resultant depressive tendencies in patients with severe Alzheimer disease

【著者】

Akito Tsugawa、 MA、 Shu Sakurai、 MD、 Yuta Inagawa、 MD、 Daisuke Hirose、 MD、 Yoshitsugu Kaneko、 MD、 Yusuke Ogawa、 MD、 Shuntaro Serisawa、 MD、 Naoto Takenoshita、 MD、 Hirofumi Sakurai、 MD、 Hidekazu Kanetaka、 MD、 Kentaro Hirao、 MD、 and Soichiro Shimizu、 MD*

○プレスリリースに関するお問い合わせ

東京医科大学 総務部 広報･社会連携推進課
TEL: 03-3351-6141（代表）